

## ボランティアで地域とのつながり、そして社会貢献を

ボランティアコーナー／国際関係学科・学生 高林 木綿子、イスパニア学科・学生 松野 珠音



はじめに

みなさんは“ボランティア”にどのようなイメージをお持ちだろうか。ボランティアは一見、ボランティアに興味のない人やあまりしたことのない人からすると、ただの慈善活動のように思われるかもしれない。だが、普段関わることのないことや人たちと関わることで興味の幅が広がることも多く、なによりこちらが元気をもらえたり、楽しさや喜びを共有できたりする。もちろん、ボランティアの依頼主の方のお役にも立てるし、それが自然と、社会問題の解決にもつながっていく。素敵だと思いませんか。今回はそんな活動の一部を紹介する。

ボランティアコーナーとは

ボランティアに関わる様々な活動を担当する大学の一機関だ。学生主体のボランティアの企画や実施、様々な団体からの情報の提供、ボランティアに関する相談の受付、学生ボランティア系サークルのとりまとめなどを行っている。

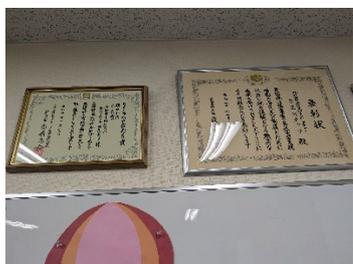


写真1: 賞もいただいている(筆者撮影)

Books for All

「Books for All」は古本を支援金にかえる活動だ。仕組みは次のようになっている。まず、大学や近くの商業施設 BRANCH で古本を集める。集まった本を私たち自身で確認して梱包し、バリューブックスが運営するチャリボンという組織に買い取ってもらう。その買い取り額が、自分たちで選んだ団体(災害や紛争、病気、教育などさまざまなジャンルや地域から選ぶことができる。私たちは飢餓と貧困の撲滅を使命とする WFP 国連世界食糧計画を支援する認定 NPO 法人を選んでいる。)への寄付金になる。

この活動での売却益、つまり寄付金額は、2021 年度は 25286 円、2022 年度は 16068 円、2023 年度は 16378 円だった。少ないと思われるかもしれないが、WFP によると、1,000 円

で、乳幼児の栄養不良を防ぐための栄養強化ペーストを 300 個届けることができるので、きちんと支援につながっていることがわかるかと思う。



写真2: 本の梱包作業(筆者撮影)

英語でなかよし

「英語でなかよし」は、小学生の子どもたちと様々なテーマに関する英単語やキーフレーズを学び、楽しみながら英語を学ぶ活動だ。地域の小学 5、6 年生なら誰でも無料で参加でき、学力などは関係ない。また、テーマは世界の妖怪やクリスマス、旅行先での買い物のロールプレイングなど、毎回様々で、参加人数にもよるが、およそ小学生 5 人と学生スタッフ 1、2 人の少人数のグループにわかれて実践的な練習を行うため、一人一人と向き合うことができる。現在は、大学の敷地内で活動を行っているが、海岸の清掃や防災訓練など関連させることで、今後、より SDGs に関わる活動になるのではとも考えている。



写真3: ハロウィンクイズの様子(学生スタッフ撮影)

がくえん陽だまりサロン

主な活動は、「陽だまりサロン」と「陽だまりお便り」である。「陽だまりサロン」は2009年に始まり、二か月に一度、外大近隣にお住まいのお年寄りと学生が集い、おしゃべりやレクリエー

ションを通じて交流を深めている。一方、「陽だまりお便り」は、毎月、学生がその月のお題に沿ったメッセージを書き、お年寄りにお届けする(図1)。

一見すると、これらの活動はSDGsの目標と直接結びつかないように見えるが、活動を通じてお年寄りの豊富な経験談に学びやヒントを得たり、温かい言葉をいただく中で、持続可能な社会を考える上で多くの気づきがある。また、お年寄りからも「若い人と話す元気もらえる」「外出のきっかけになって嬉しい」といった声をいただき、双方に良い影響をもたらしている。

このような取り組みは、大学が果たすべき、地域とのより良い関係構築という面において役割を担っていると言えるであろう。

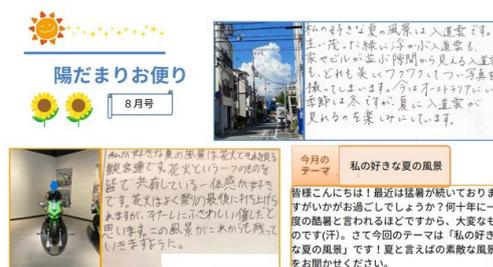


図1:「陽だまりお便り」8月号

#### ジュニアクリーン作戦とまちピカ大作戦

「ジュニアクリーン作戦」は毎月一回開催しており、学園都市駅周辺のゴミ拾いを行っている。小学生からシニアの方まで幅広いボランティアの方たちと一緒に楽しく活動をしている。主な目的は二つ。一つ目は地域と大学生の交流促進。普段関わる機会の少ない小学生や初めて出会う大人との交流によって、新たな視点や考え(自由な発想&人生経験)が得られる。反対に小学生達も、大学生の生活について聞くことで彼らの未来設計(将来こんな風になりたいな、大学生になったら等)に役立つであろう。二つ目はポイ捨てやゴミへの問題意識を共有することだ。「ジュニアクリーン作戦」を毎月行っているが、多くのゴミ(ペットボトル、たばこの吸い殻など)が集まる。普段何気なく私達の生活に潜在しているポイ捨て問題を考える機会になり、この経験が大学の授業でも役に立つかもしれない。

次に、「まちピカ大作戦」は年に1度、毎年11月ごろに開催しているゴミ拾いのイベントだ。目的は学園東町地域の美化と交流で、様々な世代の方々に参加いただいている。ゴミの種類(燃えるごみ、燃えないゴミ等)によってポイントが付き、1時間で獲得したポイントが多い順に順位がつけられ、その順位に応じて商品がもらえるため、どのチームも、ごみ拾いとは思えない、まるでスポーツをしているかのような真剣さで取り組んでいた。各チームには、私たちボラコスタッフや地域のボランティアの方々が付き添い、競技ではありつつも楽しくお話ししながら街を綺麗にすることができた。特に高い点数のゴミを見て、目を輝かせている子供達を見ていると、ボランティアを義務や責任のような考え渋々行うよりも、参加者も楽しめるようなボランティアを目指したいなど考えさせられる。



写真4:ゴミを拾う子どもたち(筆者撮影)

おわりに

社会には、さまざまな形で支えを必要としている人々がいる。ボランティアは、そのような人々との関わりが社会貢献ともなる活動だと考えている。ここでの紹介が、ボランティア活動を知り、共に豊かな社会を築いていく一歩になれば幸いです。

#### 特別寄稿:《誰一人取り残さない》

木場佳壽子(2006年~2024年外大在職)

外大に在職させていただいた2024年初めまでの18年間ボランティアコーナーの専任職員として、歴代の学生スタッフと共に地域ボランティア活動を進めてまいりました。

ボランティア活動はSDGsととても親和性が高いものですが、改めてその共通理念を考えると「誰一人取り残さない」を目指すという点に尽きます。

ボランティア活動は自分の興味関心のある分野で、社会に喜ばれる尊い活動だと言われますが、それはアルバイトも同じです。違うのは、社会の中のどんな人達が喜んでくれるのかという点。アルバイトとして働くことで喜んでくれるのは、お客さん、つまり私達のサービスにお金を対価として払える人です。

では、子どもは親に経済的な余裕がなければ塾にも行けないのでしょうか?高齢者はヘルパーさんを雇えなければ外出の楽しみも持てないのでしょうか?日本国憲法の第25条では、「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とあり、そのための国の社会的使命も規定されています。が、実際にはこのような基本的人権が十分に保障されているとは言えない現状があります。行政サービスも財源に限られ、その主な財源である税金を投入するには、社会的な課題について多くの市民の理解がないと難しいからです。

そんな時にこそ、ほんとうに支援を必要としている人のために真っ先に動けるのがボランティア活動です。SDGsでも謳われている「誰一人取り残さない」を実践するためにこそ、私たちはボランティアとして活動してきました。そのような活動を通じて、学生スタッフが多くの気づきを得て、成長してくれることをなにより頼もしく、うれしく思っています。